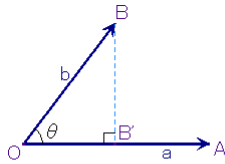


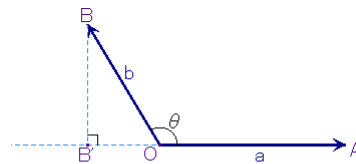
3. 内積と成分

3-1. 一方のベクトルが座標軸上にある時の「内積の成分表示」

$\vec{a} = \overline{OA}$, $\vec{b} = \overline{OB}$, \vec{a} と \vec{b} のなす角を θ ($0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$), B から直線 OA に下ろした垂線の足を B' とします. このとき, 第一節から,



$0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ$ のとき
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = OA \cdot OB \cdot \cos \theta = OA \cdot OB'$



$90^\circ < \theta \leq 180^\circ$ のとき
 $\vec{a} \cdot \vec{b} = OA \cdot OB \cdot \cos \theta = OA \cdot (-OB') = -OA \cdot OB'$

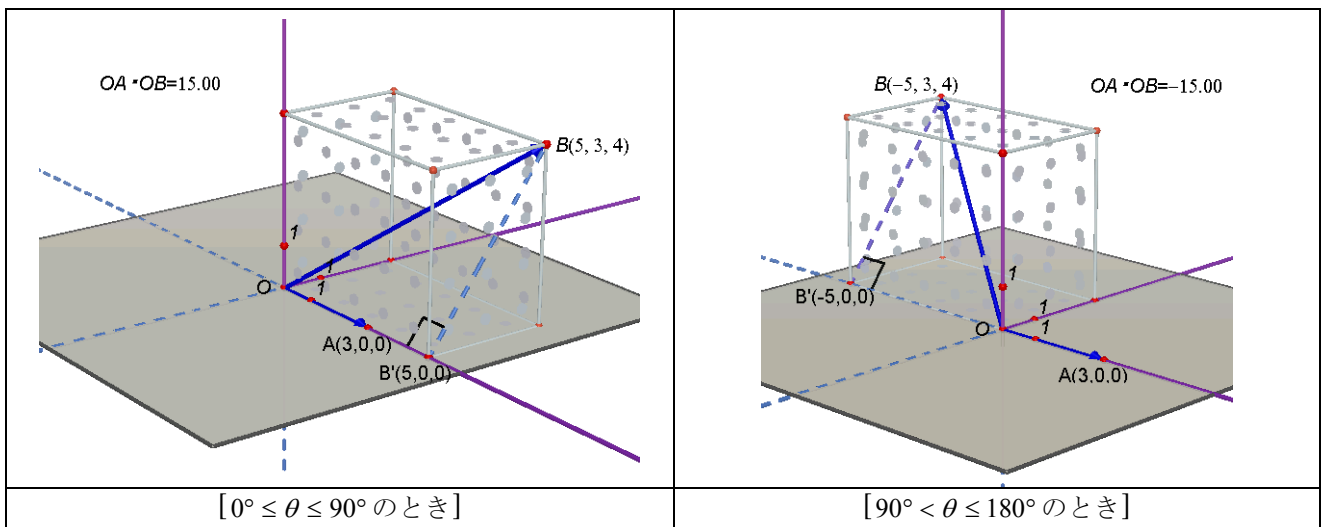
よって, \overline{OA} 方向に x 軸を取り, A, B の座標が $A(a_1, 0, 0)$, $B(b_1, b_2, b_3)$ とすると,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \begin{cases} OA \times OB' = a_1 b_1 & (0^\circ \leq \theta \leq 90^\circ \text{ のとき}) \\ OA \times (-OB') = -a_1 b_1 & (90^\circ < \theta \leq 180^\circ \text{ のとき}) \end{cases}$$

すなわち, 一方のベクトルが x 軸上にある時は,

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 \quad \dots (*)$$

が成り立ちます. (下の例もご覧ください).



【注】 (*)は, 「符号付面積」を単に数字で表しただけです.

3-1-0. Cabri3D による検証

A, B を drag して下さい. inner-product&coordinates0.html

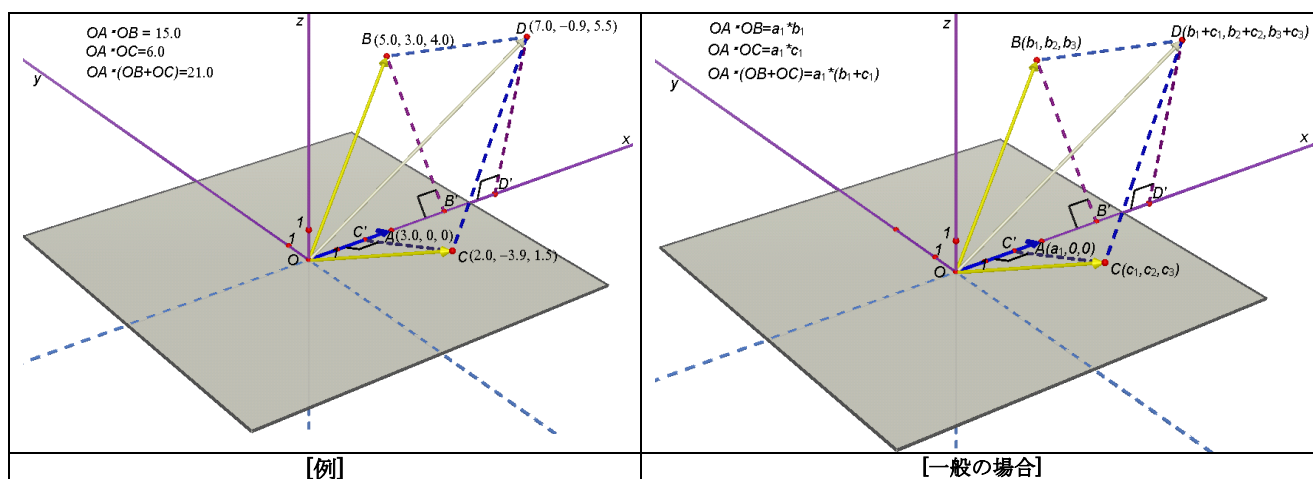
点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで Drag します. 「Shift キー」を押さないとベースの平面と平行に動くだけです. また視点を変えるには, マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します.

3-2. 内積の分配法則の「スッキリした」証明

(*)を使うと、内積の分配法則の証明も綺麗にできます。 $\vec{a} = \overline{OA}$, $\vec{b} = \overline{OB}$, $\vec{c} = \overline{OC}$, $\vec{b} + \vec{c} = \overline{OD}$, \overline{OA} 方向に x 軸を取り, $A(a_1, 0, 0)$, $B(b_1, b_2, b_3)$, $C(c_1, c_2, c_3)$ とすると, $D(b_1 + c_1, b_2 + c_2, b_3 + c_3)$. よって, (*)より,

$$\begin{cases} \vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 \\ \vec{a} \cdot \vec{c} = a_1 c_1 \\ \vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) = a_1 (b_1 + c_1) \end{cases}$$

故に, 第2節でやったような場合わけは必要なく「 $\vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) = \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{a} \cdot \vec{c}$ 」が成り立ちます. そして, x 軸のとり方は自由だから, 常に「 $\vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) = \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{a} \cdot \vec{c}$ 」が成り立つことが証明されたことになります.



【注】 (*)は, 「符号付面積」を単に数字で表しただけですから 本質的には同じです. 実数の持つ性質を利用しているので, 簡単になっただけです.

3-2-1 Cabri3D による検証

点 A, B, C を drag して見てください. distribution_law.html

点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで Drag します. 「Shift キー」を押さないとベースの平面と平行に動くだけです. また視点をを変えるには, マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します.

3-3. 一般のベクトルでの「内積の成分表示」

分配法則を利用すれば、一般の場合の「内積の成分表示」も簡単にできます。

$\vec{a} = \overline{OA}$, $\vec{b} = \overline{OB}$, $A(a_1, a_2, a_3)$, $B(b_1, b_2, b_3)$, さらに $C(b_1, 0, 0)$, $D(0, b_2, 0)$, $E(0, 0, b_3)$ とすると,

$$\overline{OB} = \overline{OC} + \overline{OD} + \overline{OE}$$

ゆえに、分配法則「 $\vec{a} \cdot (\vec{b} + \vec{c}) = \vec{a} \cdot \vec{b} + \vec{a} \cdot \vec{c}$ 」より、(直線 OA を「スクリーン」と考えて)

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{a} \cdot (\overline{OC} + \overline{OD} + \overline{OE}) = \vec{a} \cdot \overline{OC} + \vec{a} \cdot \overline{OD} + \vec{a} \cdot \overline{OE} \dots \textcircled{1}$$

ところが \overline{OC} は、 x 軸上のベクトルだから 3.1 より、(x 軸を「スクリーン」と考えて)

$$\vec{a} \cdot \overline{OC} = a_1 b_1$$

同様に \overline{OD} は、 y 軸上のベクトルだから、(y 軸を「スクリーン」と考えて)

$$\vec{a} \cdot \overline{OD} = a_2 b_2$$

同様に \overline{OE} は、 z 軸上のベクトルだから、(z 軸を「スクリーン」と考えて)

$$\vec{a} \cdot \overline{OE} = a_3 b_3$$

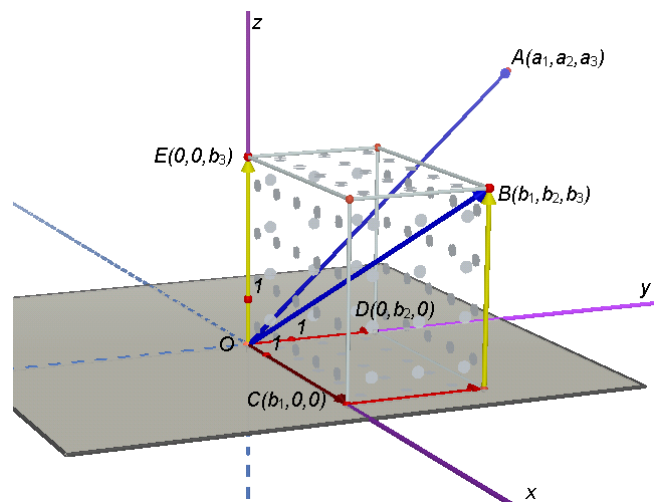
ゆえに①から、

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3$$

すなわち、

$$\vec{a} = (a_1, a_2, a_3), \vec{b} = (b_1, b_2, b_3) \text{ のとき,}$$

$$\vec{a} \cdot \vec{b} = a_1 b_1 + a_2 b_2 + a_3 b_3$$



3-2-1 Cabri3D による検証

A, B を drag して下さい. [inner product&coordinates.html](http://inner-product&coordinates.html)

点を上下に移動するには「Shift キー」を押したままで Drag します。「Shift キー」を押さないとベースの平面と平行に動くだけです。また視点をを変えるには、マウスの右ボタンを押したままで「ぐりぐり」します。